

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	旭サナック株式会社 受変電室・CS工場	階数	地下0階地上2階
建設地	愛知県豊田市長瀬町1-1-1	構造	S造
用途地域	工業地域、第一種住居地域	平均居住人員	30人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,296時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2022年2月 予定	評価の実施日	2021年11月17日
敷地面積	2,847 m ²	作成者	鈴木 宏亮
建築面積	1,996 m ²	確認日	2021年11月18日
延床面積	3,021 m ²	確認者	鈴木 宏亮



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 0.7 ★★☆☆☆

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 2.5

Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
Q1のスコア = 0.0	Q2のスコア = 3.1	Q3のスコア = 2.1
音環境: N.A.	機能性: N.A.	生物環境: 1.0
温熱環境: N.A.	耐用性: 3.0	まちなみ: 3.0
光・視環境: N.A.	対応性: 3.2	地域性: 2.0
空気質環境: N.A.		

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 2.8

LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
LR1のスコア = 2.7	LR2のスコア = 2.9	LR3のスコア = 3.0
建物外皮の: N.A.	水資源: 3.4	地球温暖化: 3.2
自然エネ: 3.0	非再生材料の: 2.7	地域環境: 2.8
設備システ: 2.6	汚染物質: 3.0	周辺環境: 3.1
効率的: 3.0		

3 重点項目

①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化
3.2	1.0
	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)
	1.6 %
	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)
	0.0 %
②資源の有効活用	④地域材の活用
2.9	1.0
	<外装材に使用した地域性のある材料>
	なし
	<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>
	なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		住居・宿泊部分		全体	
			評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質										
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル			3.0	-	-	-	-	-	-	
1.2 遮音			-	-	-	-	-	-	-	
1 開口部遮音性能			-	-	-	-	-	-	-	
2 界壁遮音性能			-	-	-	-	-	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	-	-	-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-	-	-	-	-	-	-	
1.3 吸音			-	-	-	-	-	-	-	
2 温熱環境										
2.1 室温制御			-	-	-	-	-	-	-	
1 室温			3.0	-	-	-	-	-	-	
2 外皮性能			3.0	-	-	-	-	-	-	
3 ゾーン別制御性			3.0	-	-	-	-	-	-	
2.2 湿度制御			3.0	-	-	-	-	-	-	
2.3 空調方式			3.0	-	-	-	-	-	-	
3 光・視環境										
3.1 昼光利用			-	-	-	-	-	-	-	
1 昼光率			3.0	-	-	-	-	-	-	
2 方位別開口			-	-	-	-	-	-	-	
3 昼光利用設備			3.0	-	-	-	-	-	-	
3.2 グレア対策			-	-	-	-	-	-	-	
1 昼光制御			5.0	-	-	-	-	-	-	
3.3 照度			3.0	-	-	-	-	-	-	
3.4 照明制御			3.0	-	-	-	-	-	-	
4 空気質環境										
4.1 発生源対策			-	-	-	-	-	-	-	
1 化学汚染物質			3.0	-	-	-	-	-	-	
4.2 換気			-	-	-	-	-	-	-	
1 換気量			3.0	-	-	-	-	-	-	
2 自然換気性能			3.0	-	-	-	-	-	-	
3 取り入れ外気への配慮			3.0	-	-	-	-	-	-	
4.3 運用管理			-	-	-	-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視			3.0	-	-	-	-	-	-	
2 喫煙の制御			3.0	-	-	-	-	-	-	
Q2 サービス性能										
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ			-	-	-	-	-	-	-	
1 広さ・収納性			3.0	-	-	-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応			3.0	-	-	-	-	-	-	
3 バリアフリー計画	独自		3.0	-	-	-	-	-	-	
1.2 心理性・快適性			-	-	-	-	-	-	-	
1 広さ感・景観(天井高)			3.0	-	-	-	-	-	-	
2 リフレッシュスペース			3.0	-	-	-	-	-	-	
3 内装計画			3.0	-	-	-	-	-	-	
1.3 維持管理			-	-	-	-	-	-	-	
1 維持管理に配慮した設計			3.0	-	-	-	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保			-	-	-	-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性										
2.1 耐震・免震・制震・制振			0.5	3.0	0.52	-	-	-	3.0	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)			0.4	3.0	0.48	-	-	-	-	
2 免震・制震・制振性能			3.0	3.0	0.80	-	-	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数			0.3	3.1	0.33	-	-	-	-	
1 躯体材料の耐用年数			-	3.0	0.23	-	-	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②		-	2.0	0.23	-	-	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		内壁にビニルクロス貼り(更新必要間隔:20年)を採用	-	4.0	0.09	-	-	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			-	3.0	0.08	-	-	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		材質にBランク以上を採用し、Eランクの物は採用しない	-	5.0	0.15	-	-	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔			-	3.0	0.23	-	-	-	-	
2.4 信頼性			0.1	2.8	0.19	-	-	-	-	
1 空調・換気設備			3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	
2 給排水・衛生設備			3.0	2.0	0.20	-	-	-	-	
3 電気設備			3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	
4 機械・配管支持方法	②		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	
5 通信・情報設備			3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	

3 対応性・更新性				0.4	3.2	0.48	-	-	-	3.2
3.1 空間のゆとり				0.3	3.8	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり				-	3.0	0.60	-	-	-	
2 空間の形状・自由さ				3.0	5.0	0.40	-	-	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31	-	3.0	-	
3.3 設備の更新性				0.3	3.0	0.38	-	-	-	
1 空調配管の更新性			②	-	3.0	0.17	-	-	-	
2 給排水管の更新性				3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3 電気配線の更新性				3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4 通信配線の更新性				3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5 設備機器の更新性				3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6 バックアップスペースの確保				3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	-	0.57	-	-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出			独自③	-	1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④	-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.0	0.30	-	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④	-	2.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				-	2.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	-	-	2.8
LR1 エネルギー				-	-	0.40	-	-	-	2.7
1 建物外皮の熱負荷抑制				3.0	-	-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.13	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化				BEI=0.88	3.0	2.6	0.63	-	-	2.6
4 効率的運用				0.2	3.0	0.25	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング				3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング				-	-	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制				-	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	-	0.30	-	-	-	2.9
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水				3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	2.7	0.63	-	-	-	2.7
2.1 材料使用量の削減				-	2.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.25	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			②	-	3.0	0.21	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			独自	-	3.0	1.0	0.21	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	-	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自	躯体+仕上のディテールを採用	3.0	4.0	0.25	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.0	0.22	-	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.0	0.68	-	-	-	
1 消火剤				-	-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)				-	3.0	0.50	-	-	-	
3 冷媒				3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境				-	-	0.30	-	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮			①	ライフサイクルCO2排出率94%	-	3.2	0.33	-	-	3.2
2 地域環境への配慮				0.3	2.8	0.33	-	-	-	2.8
2.1 大気汚染防止				-	5.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				-	2.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	2.2	0.25	-	-	-	
1 雨水排水負荷低減			独自	-	3.0	0.25	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制				-	3.0	0.25	-	-	-	
3 交通負荷抑制			独自	-	2.0	0.25	-	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制				-	1.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮				0.3	3.1	0.33	-	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 騒音			独自	-	3.0	1.00	-	-	-	
2 振動			独自	-	-	-	-	-	-	
3 悪臭				-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 風害の抑制				-	3.0	0.70	-	-	-	
2 砂塵の抑制				-	1.0	-	-	-	-	
3 日照障害の抑制				-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	3.7	0.20	-	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				-	4.0	0.70	-	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目(配慮項目)	評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策			3.2
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.2	0.10
② 資源の有効活用			2.9
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.22
Q2-3	対応性・更新性	3.2	0.21
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19
③ 敷地内の緑化			1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17
			外構緑化:1.6%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	LED照明等、高効率の設備機器の採用により、CO2排出低減に配慮する。
Q1 室内環境	対象外。
Q2 サービス性能	主要な内装仕上げに、更新必要間隔の長いクロス貼りを採用する。 主要な配管材料に、更新必要間隔の長い物を採用する。
Q3 室外環境(敷地内)	外来種に対して適切な対応を行っている。 塀などにより、公共空間から申請建物は見えない。
LR1 エネルギー	LED照明等、高効率の設備機器を採用する。
LR2 資源・マテリアル	自動水栓や節水型便器を採用し、水資源保護に配慮する。
LR3 敷地外環境	屋外広告物を設けない。 燃焼設備を採用せず、大気汚染物質を発生しない。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。